

奈良市地産地消促進計画における具体的施策の実施状況

推進方策	具体的方策	区分	目標値		変更目標値	
			平成28（2016）年度	平成30（2018）年度	令和2（2020）年度	
安定供給のための 生産基盤確保	①新規農業者の育成・確保	目標	新規就農者3名 (平成26年度～平成28年度の累計)	新規就農者5名 (平成26年度～平成30年度の累計)	新規就農者7名 (平成26年度～平成30年度の累計)	
		実績	新規就農者：2名	新規就農者：4名	—	
	②農業後継者の育成・確保	目標	若手農業者の団体と連携して、農業後継者を対象にした営農技術の伝承、消費者との交流活動、研修会への参加等の活動を推進します。	就農を希望する農業後継者に対する支援制度の導入を目指します。	若手農業者の団体と連携して、農業研修、消費者との交流活動、研修会の参加等の活動を推進することで、次世代を担う農業者のサポートを推進します。	
		実績	奈良市4Hクラブと連携して、営農技術の伝承、消費者との交流活動、研修会への参加等の活動を推進しました。	就農を希望する農業後継者に対して、奈良県と連携しながら就農相談に取り組んでいます。	—	
	③アクティブシニア農業体験事業を導入	目標	アクティブシニア農業体験事業の継続を目指します。	アクティブシニア農業体験事業を通じて、農作業などの体験を通じて田舎暮らしを知ってもらい、人生の生きがいや農業への魅力を感じていただく市民を増やしていきます。	アクティブシニア農業体験事業を通じて、農作業などの体験を通じて田舎暮らしを知ってもらい、人生の生きがいや農業への魅力を感じていただく市民を増やしていきます。	
		実績	アクティブシニア農業体験事業 参加者：457人	アクティブシニア農業体験事業 参加者：392人	—	
	④農業を支える女性農業者への支援	目標	目標：女性農業者の様々な取り組みをホームページ等で宣伝していきます。	目標：女性農業者に対する支援を目指します。	女性農業者に対する支援を行います。	
		実績	食の魅力を紹介するホームページ「ならじかん」において、女性農業者を紹介している。	食の魅力を紹介するホームページ「ならじかん」において、女性農業者を紹介している。	—	
	市内産農林畜産物 を利用した加工品 の拡充と促進	⑤農業者が奈良市の「食材」を活用した新商品を開発する取組を支援	目標	新商品数6点 (平成26年度～平成28年度の累計数)	新商品数10点 (平成26年度～平成30年度の累計数)	生産者や事業者等からの地元産品を使用した商品づくりの相談に応じ、新商品開発につなげていきます。
			実績	新商品数：5点	新商品数：5点	—
		⑥都祁及び月ヶ瀬の加工施設の生産体制の見直しや生産設備の機能拡充	目標	奈良市都祁農林水産物処理加工施設及び奈良市都祁農畜産物処理加工施設の生産体制の見直し及び生産設備の機能拡充を目指します。	奈良市都祁農畜産物処理加工施設の生産体制の見直し及び生産設備の拡充を目指します。	—
			実績	H26年度に奈良市都祁農林水産物処理加工施設、H27年度に奈良市都祁農畜産物処理加工施設の生産体制の見直し及び生産設備の機能拡充に取り組みました。	いずれの施設も、平成26～27年度に生産体制の見直しと生産設備の拡充を実施しました。	—

推進方策	具体的方策	区分	目標値		変更目標値
			平成28（2016）年度	平成30（2018）年度	令和2（2020）年度
新たな物流システムの構築	⑦域内での物流を効率的かつ低コスト化するために、新たな物流のシステムづくりを支援	目標	目標：市内の運送業者等と協力して直売所と飲食店等をつなぐモデル事業の実施を目指します。	目標：市内の運送業者等と協力して直売所と飲食店等をつなぐ事業の実施を目指します。	生産者や直売所と飲食店等の事業者をつなぎ、連携した取り組みをサポートします。
		実績	生産者や事業者からの個々相談等に応じて情報提供などの支援は行ったが、事業の実施には至らなかった。	生産者や事業者からの個々相談等に応じて情報提供などの支援は行ったが、事業の実施には至らなかった。	—
主要供給ルートの発展的拡大	⑧東部地域を中心に直売所の新設又は既存直売所の改修を目指す	目標	直売所の新設又は既設直売所1箇所の改修を目指します。（3年間累計）	直売所の新設又は既設直売所2箇所の改修を目指します。（5年間累計）	—
		実績	既設直売所の改修：1箇所 （H26年度に田原ふるさとほっとステーションを改修）	既設直売所の改修：1箇所 （平成29年度から、東部地域の6つの直売所が連携した「東部マルシェ」を開催し、各直売所への集客に向けて取り組んでいます。）	—
	⑨地産品を取り扱う小売店舗の広報に取り組む	目標	奈良市産「食材」を取扱う小売店舗の広報を検討していきます。	奈良市産「食材」を取扱う小売店舗の広報を実施することを目指します。	奈良市産「食材」を取扱う小売店舗の広報を継続して実施します。
		実績	地産品の取扱店舗の広報数： 27店舗	地産品の取扱店舗の広報数： 27店舗	—
生産者等と消費者の交流促進と相互理解	⑩彩マーケットを年1回実施	目標	彩マーケットを継続して実施していきます。	彩マーケットを継続して実施していきます。	—
		実績	彩マーケットの来場者数： 2481人	（旬菜メルカート[毎週末に市が開設する直売所]が定着しており、市内に民間の直売所も増え、市内産農産物を購入機会が増加したため、彩マーケットは平成28年度で終了しました。）	—
	⑪旬菜メルカートを毎週末実施	目標	旬菜メルカートを毎週末実施していきます。	旬菜メルカートを毎週末実施していきます。	—
		実績	旬菜メルカートの年間実施回数：104回	旬菜メルカートの年間実施回数：37回 （市内に民間の直売所が増え、市内産農産物を購入機会が増加しており、旬菜メルカートは平成30年度で終了しました。）	—
	⑫市内のミニ直売所の開催を支援	目標	市内6地区でミニ直売所が開催されることを目指します。	市内10地区でミニ直売所が開催されることを目指します。	地域団体や民間団体・農業者団体による自主的なミニ直売所の開催を促します。
		実績	ミニ直売所の年間開催回数： 6地区32回	ミニ直売所の年間開催回数： 7地区38回	—

推進方策	具体的方策	区分	目標値		変更目標値
			平成28（2016）年度	平成30（2018）年度	令和2（2020）年度
	⑬グリーンツーリズム、食育イベントを開催	目標	目標：グリーンツーリズム、食育イベントを年2回実施することを目指します。	目標：グリーンツーリズム、食育イベントを年4回実施することを目指します。	目標：グリーンツーリズム、食育イベントを年4回実施することを目指します。
		実績	グリーンツーリズム、食育イベント開催回数：6回 （内訳） ・アクティブシニア農業体験事業のうち、農業体験を含むもの4回 ・食育カフェ1回 ・食育セミナー・交流会1回	グリーンツーリズム、食育イベント開催回数：7回 （内訳） ・アクティブシニア農業体験事業のうち、農業体験を含むもの6回 ・食育未来ワークショップ1回	—
飲食店・観光施設等における市内産農林畜産物の利用促進	⑭大和茶ウェルカムドリンクサービスの実施	目標	目標：市内の旅館・ホテル10店舗で大和茶のウェルカムドリンクサービスを実施することを目指します。	目標：市内の旅館・ホテル20店舗で大和茶のウェルカムドリンクサービスを実施することを目指します。	—
		実績	大和茶ウェルカムドリンク実施施設：17店舗	—	—
	⑮農業者と料理人とが情報交換を行う場の創出	目標	目標：市内の農業者と料理人とが情報交換を行う場を年に1回設けることを目指します。	目標：市内の農業者と料理人とが情報交換を行う場を年に2回設けることを目指します。	市内の飲食店、旅館・ホテル等の料理人に市内産農畜産物を実際に体験していただくために、市内の農業者と料理人とが情報交換を行う場の設置を支援していきます。
		実績	農業者と料理人が意見交換を行う会等の開催：1回 （内訳） ・食育カフェ：1回	農業者と料理人が意見交換を行う会等の開催：2回 （内訳） ・食育未来ワークショップ：1回 ・奈良市食育ネット総会・交流会：1回	—
食育の推進と新たな食文化の創造	⑯学校給食の地場食材の拡大	目標	奈良市内の小学校において学校給食で使用する地場産農産物の使用率（品目ベース）を平成25年度比10%向上することを目指します。 平成25年度：35% 平成28年度：45%	奈良市内の小学校において学校給食で使用する地場産農産物の使用率（品目ベース）を平成25年度比15%向上することを目指します。 平成25年度：35% 平成30年度：50%	奈良市内の小学校において学校給食で使用する地場産農産物の使用率（品目ベース）を平成25年度比15%向上することを目指します。 平成25年度：35% 令和2年度：50%
		実績	学校給食の地場産物使用率：33.8%	学校給食の地場産物使用率：43.1%	—
	⑰苺と大和茶の消費量の拡大	目標	海外や首都圏における販路開拓を通じて「苺」と「大和茶」のブランド化を目指します。	奈良市産の「苺」及び「大和茶」のブランド化を通じて、「苺」及び「大和茶」の生産量拡大を目指します。	奈良市産の「苺」及び「大和茶」のブランド化を通じて、「苺」及び「大和茶」の生産量拡大を目指します。
実績		平成26年度から「大和茶」及び「古都華」について、海外や首都圏・地元において様々なPR事業を実施し、認知度向上を図った。	市民の「奈良市産いちごや大和茶の啓発を知っている又は参加したことがある」割合：31.6%	—	

推進方策	具体的方策	区分	目標値	目標値	変更目標値
			平成28（2016）年度	平成30（2018）年度	令和2（2020）年度
環境負荷の低減と食料自給率の向上	⑱環境負荷低減のための生産方法や配送方法の取組推進	目標	フードマイレージの短縮、環境負荷の小さい生産方式、市内配送方法の工夫に関する事例をホームページで広報していきます。	フードマイレージの短縮を検討していきます。	フードマイレージの短縮のため、地域で生産された農産物や、それらを使用した商品などを周知していきます。
		実績	フードマイレージの短縮、環境負荷の小さい生産方式、市内配送方法の工夫に関する事例については、運送業者への周知等の取組が未実施の状態です。	フードマイレージの短縮、環境負荷の小さい生産方式、市内配送方法の工夫に関する事例については、運送業者への周知等の取組が未実施の状態です。	—
	⑲環境保全型農業の取組推進	目標	環境保全型農業に取り組む農業者を紹介していきます。	環境保全型農業に取り組む農業者が生産する農作物が購入できる場所を広く広報していきます。	環境保全型農業に取り組む農業者が生産する農作物が購入できる場所を広く広報していきます。
		実績	奈良市ホームページにおいて環境保全型農業直接支払交付金制度について紹介するとともに、認定状況について紹介しています。	奈良市ホームページにおいて環境保全型農業直接支払交付金制度について紹介するとともに、認定状況について紹介しています。	—